



旧千円札の図案の原案《湖畔の春》本栖湖、昭和10年5月



《羽衣海岸》三保、昭和27年



《水車と子供》忍野八海、昭和25年1月



《三津浜》三津浜、昭和20年代

令和7年12月10日[水] → 令和8年1月18日[日]

岡田紅陽
生誕130年記念
企画展

富士とうみ

〔観覧料〕無料（常設展は別途必要）〔休館日〕火曜日、12/28（日）－1/1（木）

〔会場〕岡田紅陽写真美術館企画展示ホール〔開館時間〕10時～17時（入館は16:30分まで）

〔主催〕忍野村教育委員会（岡田紅陽写真美術館・小池邦夫絵手紙美術館）

観覧無料
常設展は別途



岡田紅陽 生誕 130 年記念 企画展

令和 7 年 12 月 10 日 [水] → 令和 8 年 1 月 18 日 [日]

富士とうみ



《残月》精進湖



《夏の富士》忍野八海、昭和 40 年 9 月

岡田紅陽は忍野村を拠点に富士山撮影に生涯を捧げた昭和を代表する写真家です。今年、紅陽が生誕 130 年を迎えたことを記念し、企画展「富士とうみ」を開催いたします。

雲、雪、月、花など、富士山はさまざまな風物と共に表現されますが、本展では紅陽の作品の中から「うみ」にまつわる写真を展示いたします。

富士山の周りには様々な「うみ」が存在しています。海、湖の他に、池や沼も「うみ」と呼ばれる場合があります。これら多くの「うみ」が存在することは、富士山の豊かさによるものといえますが、紅陽は様々な恩恵をうみだす富士山への敬愛の念を持って撮影に挑んでいました。

本展では「うみ」をテーマに富士山周辺の自然の美しさや個性を再発見するとともに、紅陽の業績を振り返ります。

岡田紅陽 (1895-1972) 略歴

本名は岡田賢治郎。1895 年 8 月 31 日新潟県中魚沼郡中条村（現在の十日町市）出身。早稲田大学入学後から写真に興味を持ちはじめ、1916 年、21 歳の時に山梨県忍野村からの富士を撮影、この後生涯を通じて忍野村からの富士山を最も多く撮影することになる。1923 年、関東大震災で罹災しながらも直後から震災の様子を撮影、『東京震災写真帖』（1923 年 9 月）となって国内外に配布された。



昭和に入ると富士山撮影を本格的に開始。

1943 年には《神韻霊峰》を昭和天皇に献上。1972 年 11 月 22 日死去。

本栖湖から撮影した《湖畔の春》が五千円札（1984 年発行 D 号券）、千円札（2004 年発行 E 号券）の図案に採用される。

年賀状に使える！ 消しゴムはんこ作りワークショップ

年賀状や箸袋、ポチ袋などに使えるはんこを作って、新年を迎える準備をしてみませんか。ご自分が彫ったはんこや当美術館にあるはんこ・素材を使ってオリジナル年賀状などを作成することもできます。

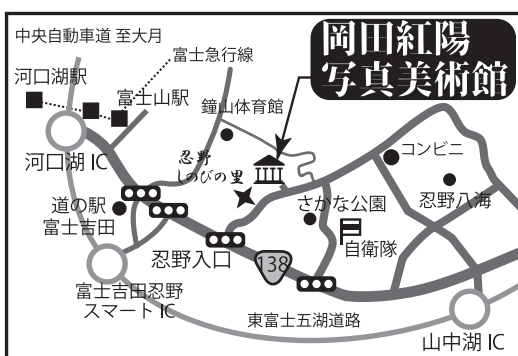
参加費：500 円（入館料込み） 募集人数：10 名（先着順）

開催日：12 月 13 日（土）13：30～15：30

【持ち物】はさみ、筆記用具（鉛筆、ボールペンなど）、老眼鏡（必要な方）

【対象】小学 4 年生以上、大人の方も大歓迎！（大人の方が補助できるのであれば低学年でも参加可能です。興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。）

【申込】電話にて（0555-84-3222）まで。（時間 10 時～17 時）



●電車・路線バス：JR 大月駅から富士急行線「富士山駅」下車、内野行きまたは平野行きバスにて 12 分「忍野しのびの里」下車。

●高速バス：新宿バスターミナルより忍野経由・山中湖行き「忍野しのびの里」下車、または山中湖・平野行き「忍野入口」下車徒歩 15 分。

●自動車：東富士五湖道路「富士吉田忍野スマートIC」より 5 分または「山中湖IC」より 10 分。中央高速道路「河口湖IC」より 15 分。



四季の杜おしのの公園 岡田紅陽写真美術館（小池邦夫絵手紙美術館併設）

〒401-0511 山梨県南都留郡忍野村忍草 2838-1

TEL. 0555-84-3222 FAX. 0555-84-3320 <https://oshino-artmuseum.com/>